

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100247		
法人名	医療法人岡仁会		
事業所名	グループホームきょうりつ		
所在地	大分県大分市大字奥田30-1		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	平成25年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100247&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F		
訪問調査日	平成25年7月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の事を理解して頂く為に、ご家族や地域の方に呼びかけて認知症サポーターの講習会を毎年開催している。職員を対象としては、オレンジドクターである併設病院の先生の協力を得て毎月認知症の勉強会を行っている。 ・遠方(県外)のご家族には、グループホーム便りを送る事で近況報告をしたり、またキーパーソンが兄弟で高齢の為、要望や意向を取り入れ家族の負担軽減を図っている。 ・母体の病院と併設している為、緊急時でも迅速な対応が可能である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>生活の利便性に富む住宅地に在り、医療法人に属する2ユニットの施設です。理念に繋がる支援を基盤に、全職員間の周知に取り組んでおり「心得アンケート」を実施しています。認知症への理解と待てる介護者としての資質の向上を目指し、個々の利用者に対応した言葉かけへの留意、その思いに添ったケアの実践への取り組みの姿勢が伺えます。開かれた施設づくりの一環として、他グループホーム間との交換研修も行われており、また、施設は「家」である意義を踏まえながら、地域社会との触れ合いのある暮らしづくりにも取り組んでいます。個々の利用者を取り巻く環境の把握、家族等との相互交流を図りながら、安心・安全な暮らしへの配慮の営み(支援)が伺えます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、職員会議で理念を復唱している。全職員が、理念を理解し、実践につなげられるよう 玄関、事務所及び職員控え室に理念を掲示している。	全職員間において、理念の周知と反映を目指す施策として、台所に「職員の心得」を掲示し、グループ会議において支援状況の確認に取り組んでいます。	管理者は「待てる介護者」であること、利用者の見えない部分(思い)の理解を深めていきたいとの意向を示しており、今後の全職員間での理念の把握と周知徹底への体制作りに向けて期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練に参加したり、自治会や子供会行事に参加できるように自治会長を通して連絡している。	公共機関の関連行事(防災訓練・地域の介護教室への支援)への参加、及び改善点についての話し合い等が行われており、前進的な取り組みの姿勢が伺えます。中学校の職場体験授業の受入れも行われています。	管理者は、地域との繋がりの意義を把握しています。利用者の体調管理に努め、開かれた施設として取り組むべき活動を試案しています。施設状況に即した更なる支援体制づくりに期待が持たれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講習会をキャラバンメイトを講師として招き実施した。第3回目を今年も地域の方にも参加して頂き10月に行う予定にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一回運営推進会議を行っており、そこで頂いた意見については、迅速に取り組み次の運営推進会議で経過報告を行っている。	施設の状況報告や参加者からの情報提供、意見交換や提案事項の協議などが行われています。年1回の食事会・運動会では、利用者との交流が図られるなど、地域の一員として施設生活を営む施設づくりへの取り組みの様子が伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者の助言により、事業所でのマニュアルの見直しを行い新たに作成した。また、市が主催する研修会にも積極的に参加している。	利用者に関する諸手続きや相談等におけるアドバイスを実践に繋げており、積極的な関わりの中から相互の関係づくりが図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で、入居者の安全面に配慮しながら、臨機応変に見守りや声掛けなどを行い拘束をしないケアを実践するように全職員に周知徹底している。玄関の施錠は夜間のみしか行っていない。	利用者の癖や特徴の把握に努めることで回避できる危険行動について、職員間の前進的な協議を大切にしています。個性に対応可能な支援、臨機応変な対応に努めながら、身心の健康に配慮したケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が管理者研修に参加し、学んだことをもとにグループ会議で職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が主催する講座を管理者が受講して全職員に周知し、制度を活用できる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者が行っており、十分に説明し、納得された上で、署名・捺印を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置して、ご家族の意見や要望を聞くようにしている。また、運営推進会議に出席して頂き、発言の場を設け、意見や要望を出来る限り反映するように努めている。	家族等の面会時には、積極的なコミュニケーションに努める中で、相互の関係づくりに取り組んでいます。情報の伝達(便り配付・利用料の預り金報告)を活用しながら、施設との関係性を深める支援、意思疎通に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は、毎月の職員会議で出し合っている。また、日頃から職員との積極的なコミュニケーションを図り意見交換を行うように努めている。	日常の支援からの気付き(地域交流-地域の業者への物資発注・ハード面-浴室の改善)や業務改善等、会議では職員間の活発な意見交換が図られており、実践への取り組みに繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会及び資格習得に向けた支援を行い向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加させ、スキルアップが出来る様に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分市の各地域で行われている認知症ネットワークに参加して多職種事例検討会でのグループワークを通し、交流と学びの機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、必ずご本人と面会している。また、ご家族や担当ケアマネを通して情報収集を行い、よい支援が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時にご本人及び、ご家族の要望や意見を聴き、対応している。また、ご家族からの要望が出やすいように、関係作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で、ご本人にとってどのようなサービスが必要かをご家族も含めて話し合い、当事業所以外のサービス内容についても説明し、提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする物を生活の中で引き出し、役割を持っていただく事で生活のリズムを作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、こまめに連絡を行い、意見や要望を密に聞き取り、共に支援していく関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開放的な施設の環境作りに努めています。入居者の多くが近隣で近所の方や老人会仲間が気軽に立ち寄ってくれる。また、退所されたご家族の方が古紙を持参していただき、再利用している。	家族や知人の継続的な訪問を積極的に支援しています。近隣の利用者も多く、個々の利用者を取り巻く環境の把握に努める中で、デイサービス利用者の立ち寄り訪問も見受けられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やホールで過ごす際の場所を考慮している。また、両ユニットの交流が深まるように“歌の会”を開いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、入居者への支援内容や注意点等の情報提供を行い、退所後は面会に行くなどしている。ご家族様より経過報告や相談を受ける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は、本人に直接聞くようにしている。本人より聞き取りが困難な場合は、日々の関りの中で、想いや意向の把握に努めている。また、家族の思いや意向も参考にしている。	家族との連携を大切に、利用者や家族の思い（相性の把握、体力維持、家事手伝い等のできる役割り、興味など）、これまでの生活歴の把握に努める等、利用者のニーズに添った環境づくりや支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネ情報を通して、これまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々のようすを観察し、心身状態の把握に努めている。全職員が入居者様の現病歴を把握し、入居者様一人ひとりの心身状態に合わせたバイタルチェックを行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が主体となり、本人・ご家族の意向を、ふまえながら、カンファレンスにて他職員の意見を取り入れ、介護計画を作成している。	3か月毎の見直しや状況に即した臨機応変な策定にあたり、心身状況の把握・日常生活から見える気付きを大切に、全職員間での協議に取り組んでいます。一人ひとりの利用や家族の思いの把握・支援に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や生活記録に日常の様子を記入し情報を共有するように努めている。また、バイタル測定・食事摂取量・排泄チェック表等で入居者の心身の状況を把握するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、ケアマネ情報を通して、これまでの生活歴や生活環境の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議において、参加者の皆様から地域の情報を頂いており、地域の回覧版を回して頂くなどして情報収集に努めている。また、ボランティアの受け入れを行い、地域の方への交流が図れるように勤めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医への受診を基本とし、ご本人・家族の希望に添った医療機関への受診を心がけている。	利用者、家族の意向を尊重しており、たとえ遠方でも希望するかかりつけ医と連携していますが、大方の利用者は法人の医療機関をかかりつけ医としています。受診や年2回の健康診断、夜間や緊急時の往診対応等母体医療機関との協力体制が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士より、入居者様の状態について、その都度、報告・連絡・相談があり、看護師より適切な指示がだされている。また、隣接している母体医療機関の看護師とも密に連絡を取り協力関係を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の看護師及びMSWと連携し、情報収集に努めている。また、医療機関へ管理者及び看護師が出向き、直接本人の情報収集を行い、ご家族とも話し合いながら退院後の受け入れがスムーズにできるよう、環境調整に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切にしながら家族と話し合い入居者様が安心して終末期を過ごしていただける取り組み、急変の際は、直ぐに対応出来るように医療機関とも密に連携を図り対応している。	契約時に「重度化した場合における対応指針」を基に、事業所ができる最大のケアについて説明を行っています。現状では、医療行為が必要になれば隣接する病院を利用し、看取りでは家族の協力があれば事業所で行う方針です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、全職員に周知徹底している。ノロ対策については、定期的に訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方の訓練指導を定期的に行っている。また、入居者様には、災害時に備えて、各自リュックを準備していただいている。	市が主催する防災訓練の参加や事業所では夜間を想定した訓練も行われています。運営推進会議で近隣住民の協力を呼びかけたり、逆に事業所が地域に役立つことを提案するなど、協力関係を力を入れています。	今後は、自然災害(水害)時の対応を話し合い、避難場所、避難経路マップを作成し、机上訓練やシュミレーション等で、意識付けされることが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月一回の職員会議にて、言葉使いを始め、プライバシーや尊厳について、意識を高めるよう指導している。また、法人主催の接遇マナー研修に全職員参加している。	法人で行う「接遇マナー」の研修に参加し研鑽を深めると共に、利用者一人ひとりに合わせた言葉掛けや、自尊心を傷つけない対応に努めています。入浴や排泄介助時の声掛けや寄り添う姿勢に、介護理念の実践であることが、確認できました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように、入居者様のペースを大事にするように心がけている。また、できる限り “開かれた質問”を行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活リズムの流れは作っているが、ご本人の意志を尊重し、無理強いするようなことなく、本人のペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の個人個人の好みにお任せしている。家族の希望がある場合は、ご本人に納得していただいてから、着用していただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調を見ながらできる範囲で後片付けを一緒に行っている。	食事は外部委託した給食です。汁物とデザートは、ホームの台所で職員が作っており、職員と一緒に食卓を囲む中で、声掛けをしたり、音楽を流したりと楽しく食事をする工夫を行っています。	給食のため利用者の好みや、食事に反映しにくい場合があります。嗜好調査を行い、おやつレクリエーション等で利用者と一緒に好きな食べ物を調理をする計画があり、是非実行されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	サービス記録表に食事量・水分量等を毎日その都度チェックし、一人ひとりの状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全入居者が口腔ケアを行っている。また協力機関の歯科医の指導の下、その方に合った個別支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行い、自立に向けた支援に努めている。	利用者のしぐさや行動変容を理解し、タイミングの良い声掛けやトイレ誘導を模索しながら、トイレでの排泄に繋がっています。また、対応時のプライバシーの配慮にも十分注意しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて、入居者様の排便リズムを把握し、なるべく下剤を使用しないように運動を取り入れたり、ヨーグルトや果物を提供したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一週間に基本三回となっているが時間帯は入居者様の希望に沿う様、対応している。	一人でゆっくり長湯される方や、職員との会話を楽しみにされる方など、くつろぎの時間を大切に、入浴を楽しんでいます。また、今後、身体機能低下に伴う対策として、リフト浴が行えるようハード面での改善もみられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間、就寝時間は、入居者様の習慣や体調に合わせて、見守りを中心に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬当番を決め、全職員が携わり周知徹底できるように努めている。また、薬品説明書を一冊のファイルにし、全職員が確認、把握でき、服薬については、飲み終わるまで職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で個々の力が発揮できるような、仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。また、日々の中でその人に沿った楽しみや役割を見つけられる様に職員同士で情報共有し支援に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物などは、積極的に行っており、日常的に外周散歩を行っている。施設で対応困難な場合は家族の協力を得て、できる限り希望が叶えられるように支援している。	日常的なホーム周辺の散歩や、季節感を取入れたドライブ、外食等、利用者の希望を聞き、支援をしています。気候の良い時は、庭でのお茶会をしたり、気分転換にも努めています。	高齢化、重度化の中で利用者が、外に出るのをおっくうがるが、外に出たいと言う意欲が出るような声掛けに期待します。また、隣接するデイサービスとタイアップしたイベント等を企画し、日常ケアに生かされることも検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じて、自己管理できる方とできない方とにわかれるが、入居者様の希望に沿えるように職員が同行し、買物に行くように支援している。なお、毎月ご家族に収支をお知らせしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、職員の支援が必要な方には、職員が個々に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃をこまめに行い、気持ちよく使用できるよう支援を行っている。季節が感じられるよう、その季節に合ったものを入居者様と作ったり、飾ったりしている。	窓から光が適度に入り、明るく、玄関やリビング、利用者の部屋の表札には季節感のある花が飾られています。飾り絵や行事の写真が飾られ話題の一助になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファの位置や食事のテーブル席などそれぞれの人間関係を考えて決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのものなどを持って来ていただくようにしている。	利用者がタンス、布団、テレビ等思い思いの物を持ち込み、家族とともに居心地良い居室を作っています。また、寝たきりの利用者の目線に合わせ、家族写真や飾り絵等をはる配慮をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂・トイレ・廊下などには、手すりを設置し自立歩行の安定を図っている。また、居室は、状態や状況に応じて家具やベッドの配置の変更を行っている。		